

するための後ろ向き試験では, estimated glomerular filtration rate (e-GFR) が唯一の独立した予測因子であり, MELD \geq 20 の症例は MELD $<$ 20 の症例に比べ, 有意に慢性腎不全の発症率が高いことが報告された²⁴⁾. 肝移植後の GFR の低下には, 免疫抑制療法に使用する CNI が影響する. CNI 単剤で管理した症例に比べ, CNI と mycophenolate mofetil (MMF) の併用で管理した症例では, GFR の低下が有意に軽減されている²⁵⁾. さらに, 肝移植後に腎障害をきたした症例に対し, CNI を完全に中止して MMF にコンバートすることで, 急性拒絶を高頻度に発症することなく e-GFR の改善が得られた報告も認められる²⁶⁾.

▶ イスタンブール宣言

UNOS は 1994 年に外国人患者に関する移植の指針を見直し, 医療施設の外国人移植枠を 10% から 5% に削減した. 一方, 本邦では 1997 年 10 月 16 日に臓器移植法が施行されたが, 救急医療現場での対応が進まないことや国民感情などから, 脳死ドナー不足は深刻である. そのため, 日本などから移植手術を受けるため海外渡航する患者が後を絶たず, 受け入れ国での臓器不足が深刻化している. そのような状況下で, 国際移植学会が, 2008 年のイスタンブール宣言で渡航移植禁止を求める宣言を発表した²⁷⁾. この宣言では, 「臓器取引 (organ trafficking), 移植商業主義 (transplant commercialism), 移植ツーリズム (transplant tourism) は禁じられるべき」としており, アメリカ移植学会およびアメリカ移植外科学会は, この宣言を称賛, 支持する声明を発表している²⁸⁾.

さらに世界保健機関 (WHO) の 2010 年 5 月の総会で, 海外に渡航して受ける臓器移植の自粛を求める指針案が正式決定される見通しが高まったことで, 移植を取り巻く環境は一段と厳しさを増し, 国内で移植法改正の機運が急速に高まり, 臓器移植法改正案が 2009 年 7 月 3 日に成立した. 提供者の年齢制限が撤廃され, 家族の合意のみによる臓器提供が今後可能となり, ドナー不足の解消が期待される場所であるが, 移植外科医の減少, 救急医療現場の環境悪化, 移植コーディネーター不足など問題は山積している.

24) Sharma P, Welch K, Eikstadt R et al : Renal outcomes after liver transplantation in the model for end-stage liver disease era. *Liver Transpl* 15 (9) : 1142-1148, 2009

25) Karie-Guigues S, Janus N, Saliba F et al : Long-term renal function in liver transplant recipients and impact of immunosuppressive regimens (calcineurin inhibitors alone or in combination with mycophenolate mofetil) : the TRY study. *Liver Transpl* 15 (9) : 1083-1091, 2009

26) Dharancy S, Iannelli A, Hulin A et al : Mycophenolate mofetil monotherapy for severe side effects of calcineurin inhibitors following liver transplantation. *Am J Transplant* 9 (3) : 610-613, 2009

27) Steering Committee of the Istanbul Summit. Organ trafficking and transplant tourism and commercialism : the Declaration of Istanbul. *Lancet* 372 : 5-6, 2008

28) Reed AI, Merion RM, Roberts JP et al : The Declaration of Istanbul : review and commentary by the American Society of Transplant Surgeons Ethics Committee and Executive Committee. *Am J Transplant* 9 : 2466-2469, 2009

